

第4章 小樽運河

内山孝太

4.1 概要

小樽運河は、1914年に工事が着工し、9年という長い歳月を経て、1923年に完成した。

「埋立て式運河」と呼ばれた小樽運河は、内陸に水路を掘ったものではなく、沖合を埋立て、陸との間に出来た水路であり、当初は、長さ1314m、幅40m、水深2.4mであった。しかし、現在では、幅の半分が埋め立てられて道路になっているものの、北運河は、幅40mのまま残された。散策路には63基のガス灯が設置され、運河沿いの石造倉庫群は当

時の姿のまま残されており、レストランなどに再利用されている。夕暮れ時には、ガス灯がともるとともに石造倉庫群がライトアップされ、昼間とは違った雰囲気を演出している。

小樽運河には、大小4つの橋が架かっており、東（札幌寄り）から浅草橋、中央橋、竜宮橋、北浜橋である。一般に小樽運河と呼ばれている部分は浅草橋から竜宮橋周辺までの埋め立てられた区間で、それ以降は北運河と呼ばれることが多い。最も多くの観光客が訪れるのは観光案内所がある浅草橋周辺である。

小樽運河は、1996年に国土交通省の「都市景観100選」も受賞している。

4.2 歴史

1923年に完成した小樽運河では、海上に停泊した船舶からの貨物の荷揚げには舢舨（はしけ）舟が使われた。運河方式ともいべき荷揚げスタイルは戦後の樺太輸送の断絶と、太平洋側の苫小牧港の整備、小樽港湾内の埠頭の整備によって衰退していく。

1970年頃になると既に無用の長物と化していた小樽運河を埋め立て、道路として整備する方針が小樽市によって打ち出され、これに対し

図4-1 浅草橋から撮った小樽運河



出所：ECO - MISSION2011@JAPAN

図4-2 かつての小樽運河



出所：Blog??・・・Life Log だな

運河の保存運動が全国規模で高まった。市側は当初の全面埋め立てに対し、運河の半分の幅を残す妥協案を提示するが、全面保存を求める保存派と意見が折り合わないまま、1983年には埋め立て工事が着手、1986年には道道小樽臨港線が開通する。

運河の沿線には「小樽運河ふれあいの散歩道」として、事業費約 52 億円をかけて散策路が整備され、私たちが今、観光名所として目にする小樽運河が誕生することになる。かつての岸が現在の道路の中央分離帯あたりにあることは、「散歩道」の案内板でも知ることができる。

4.3 小樽運河保存問題

4.3.1 概要

小樽運河保存問題とは、1973 年から 1984 年の約 12 年間にわたり地域のシンボルであった小樽運河と周囲の町並みを道路建設で潰すか否かを争点にした行政と住民運動の攻防である。市当局は運河を埋め立てて幹線道路を建設することが経済再活性化に寄与すると主張したが、保存運動は運河の保存・再生によって地域再活性化が行われるべきだとして対立した。したがって、小樽運河保存問題とは表面的には道路問題であったわけだが、実際には都市再開発戦略の相違がもたらした社会的対立であったと思われる。つまり市側の主張のように機能的に古くなったものを絶えず更新していく「スクラップ・アンド・ビルド」戦略をとるのか、それとも運動側が主張した古いものをストックとして評価して活用する「リハビリテーション」戦略をとるのかの対立である。これは、「運河論争」とも「運河戦争」とも呼ばれているが、市外の人々も巻き込むものとなり、全国的に知られるところとなった。

4.3.2 「小樽運河を守る会」

観光地となった小樽運河は、ひとつの小規模な市民団体の、20 年にわたる運河保存がそのスタートである。「先人の資産である運河こそが地域のシンボルである」との考えのもと、活動の中心的組織体である「小樽運河を守る会」が 1973 年 12 月に発足する。しかし、運河埋め立てを実行しようとする行政や政治との戦いは容易ではなく、「小樽運河を守る会」の初代会長が自殺に追い込まれたことなどは意外と知られていない。精力的に活動した峯山富美会長も、ついに 1984 年 8 月に辞任するに至った。

図 4-3 故 峯山富美さん



出所: 山口たもつが行く! - livedoor Blog

しかし、峯山富美会長は、広報活動、陳情、署名運動、展覧会、そしてイベント開催、

いずれも一過性の運動とならないように、組織内の求心力を高めるとともに、組織活力を維持するために注力し続けていた。また、地域の内外からのアイデアや智恵を得て、より広く活動の趣旨、求めるべき「夢」をアピールし続け、支持層の幅を広げることに努力していた。

4.4 観光としての小樽運河

4.4.1 概要

観光客の推移をみると、工事が完成する以前の1985年の観光客（総数）は199万人であったが、工事完成後には急増し始めた。ピークの2001年には893万人に膨れ上がり、85年の約5倍となった（表4-1 参照）。2000年の小樽市の人口は約15万人であるから、人口の60倍近い観光客が小樽を訪れるようになったのである。いまや、小樽の観光は、小樽運河を抜きには成立しないと言っても過言ではない。運河の埋め立てに固執した小樽市や商工会議所も、いまでは小樽運河を小樽観光の目玉として認めている。

観光客は老若男女様々だが、修学旅行生も少なくない。国内の修学旅行が減るなかで、ここは運河と石造倉庫という歴史の原風景、石造建築物などの歴史的遺産、ガラス工芸品造りの実演などを見ることができるので、修学旅行に適した場所となっているのであろう。

表4-1 小樽市観光客の推移

年度	総数	日帰客	宿泊客	日帰客の比率	道外客の比率
1985	199	184	15	92	16
1990	331	299	32	90	22
1995	562	508	54	90	26
2000	859	780	79	91	27
2001	893	816	78	91	27
2002	848	773	74	91	28
2005	756	685	71	91	29
2007	741	674	67	91	30

（単位：万人、％）

出所：小樽市統計書

4.4.2 課題

小樽運河は、短時間見れば十分であり、ここに長く留まる観光客は少ない。堺町通りの北一ガラス館やオルゴール館などを見たり、海の幸などを食べたりした後は、札幌などに日帰りする人が多い。表1の『小樽市統計書』によれば、観光客の9割以上が日帰客であり、宿泊客は1割ほどである。2003年と2004年の小樽市の調査でも、観光客の平均滞在時間が4.8時間であり、特に小樽運河周辺だけを訪問する通過型観光となっていると指摘されている。

4.5 石造倉庫群

4.5.1 小樽ビール・小樽倉庫 No.1

1995年7月15日に小樽運河倉庫群で営業を開始し、1516年にドイツで発令された「ビール純粹令」にもとづき、ドイツ産の麦芽・ホップ・酵母と小樽の名水を使って作られた小樽ビールが飲めるビアホールである。

3種類の個性あふれる味わいの地ビールのほか、その時期にしかできない数量限定の季節のビールも大人気である。

右図は、左から、ピルスナー・ドンケル・ヴァイスの小樽ビールである。

図 4-4 小樽ビール



出所：Hokkaido1.jp

4.5.2 旧篠田倉庫

旧篠田倉庫は、1925年に建てられ、小樽運河の海側に位置し、連続した倉庫群を形成する主要な建造物である。

煉瓦の壁は、周辺の石やコンクリート壁に対して景観のポイントになっている。

構造は、内部の柱や梁を木で組み立て、外壁に煉瓦を積み立てる「木骨煉瓦造」の2階建てで、小樽の同規模の倉庫では数少ない事例である。

運河沿いの壁は、1996年の改修工事で新しい煉瓦に取り替えられているが、古い色合いになるよう工夫が施されている。

図 4-5 旧篠田倉庫



撮影：通りすがりのお姉さん

4.6 人力車

4.6.1 起源

人力車は、和泉要助、高山幸助、鈴木徳次郎が1868年発明したといわれている。それまでの籠に代わり、人力車は1872年には4万台にまで増えていった（1876年東京府管内統計表）。のちには中国、インド、東南アジアに輸出されるようになり、「リキシャ」の名称で普及した。人力車はその後、自動車に主役を奪われるが、花柳界など一部では使われ続けていた。今日では写真や映画などで情緒あるイメージとしてよく登場する。

嘉納治五郎が創設した講道館柔道の四天王の一人、西郷四郎をモデルにした「姿三四郎」では三四郎は一介の車夫だった。また蕎麦屋でよく見かける絵には、車夫が人力車の前にしゃがみこみ、蕎麦をかきこんでいる粋な風景がある。人力車は、江戸の心意気や粋などの日本の情緒として、私たちの心の中に染みこんでいる。

図 4-6 人力車



撮影：車夫さん

4.6.2 えびす屋

地域の歴史をベースにした観光地が昭和後期から増え始めてきたが、1992年に京都嵐山に「えびす屋」がアミューズメントとしての人力車を走行させた。以後、嵐山を根拠地に、京都東山、鎌倉、奈良、関門、小樽、湯布院、函館、浅草雷門と全国9拠点を設けて開設していく。小樽には2002年5月に開設された。

小樽では主に運河の浅草橋と中央橋を拠点に、運河周辺を試乗できるコースが一般的になっている。6月から9月の繁忙期には全国9拠点から35名もの車夫が人力車ごと小樽に来て活躍し、逆に10月から3月の閑散期には8名で運営されている。営業時間は朝8時に集合、夜は11時近くまで続くこともある。夜の運河散策の観光客も増え、ガス燈の情緒を味わうというこれまでにない小樽観光が芽生え始めている。年中無休で、雨が降ろうが雪が降ろうが営業は行われている。

また、小樽店では開設以来、運河周辺を核に走行範囲のゴミ拾いなどの社会活動を自主的に毎日行っている。真っ黒く日焼けした頭に手ぬぐいを巻き、法被に又引の小粋でいなせな車夫たちの姿は、運河周辺に独特な情緒を与えている。

また、お客様に大きな声で歴史的なおもしろいガイドをしようと、小樽観光大学校の「おたる案内人」一級有資格者も在籍している。

4.7 イベント

4.7.1 おたる潮まつり

4.7.1.1 概要

おたる潮まつりは、「海への感謝と郷土小樽の発展を全市民あげて祈念する」をメインテーマに開催される、小樽最大のイベントである。今年で45回目を迎え、小樽の夏の風物詩として、市民や観光で訪れる皆さんにもすっかり定着している。

4.7.1.2 花火大会

「競争花火大会」より半世紀以上の歴史を持つ。おたる潮まつりとなってからは最終日に行われているが、第43回（2009年）と第44回（2010年）は初日と最終日の計2回行われた。これにより初日は「山灯（やまび）」、最終日は「海灯（うみび）」と名づけられる。第45回（2011年）は、最終日の1回のみで、名称も「道新納涼花火大会」と改称された。また、メイン会場となる第三埠頭から1回につき2000～3000発打ち上げられ、その花火大会の様子はFMおたるでも中継されている。

図 4-7 おたる潮まつり花火大会



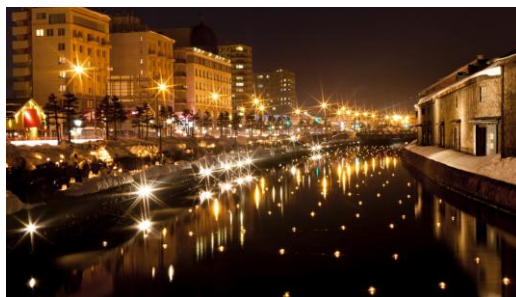
出所：おたる潮まつり HP

4.7.2 小樽雪あかりの路

4.7.2.1 概要

小樽雪あかりの路は、1999年から毎年2月に開催されている雪とろうそくの祭典で、冬の北海道を代表するイベントである。小樽雪あかりの路実行委員会が主催し、市民や地元商店街、町内会、企業、学校やボランティアなどが支えている。期間中は歴史的な街並みの中に並べられた無数のキャンドルによって幻想的な雰囲気が演出され人気が定着しつつある。地元では「雪あかりの路」の通称で親しまれている。

図 4-8 小樽雪あかりの路



出所：フォト壁

4.7.2.2 ふるさとイベント大賞

財団法人地域活性化センター主催のふるさとイベント大賞は、全国の都道府県から推薦された 126 のイベントの中から審査された。そこで、「小樽雪あかりの路」は第 10 回ふるさとイベント大賞（2006 年）で道内初の「総務大臣表彰」を受賞した。

「小樽雪あかりの路」は、「雪」と「歴史的街並み」という地域資源を有効活用しているとともに、身近な素材を使って地域住民の力でまちに新たな魅力を生み出すことで、冬季の観光客が増えるという最大の効果を得ていることや、町内会や学校単位で参加する地域住民が増え、地域のコミュニティー復活にも一役買っていることなどが評価され、大賞を獲得した。

その他にも、第 2 回 JTB 交流文化賞（2007 年）「最優秀賞」、国土交通省主催手づくり郷土賞（2004 年）「地域活動部門」、(社)日本青年会議所褒賞アワード（2003 年）最優秀賞、国土交通省地域づくり表彰（2010 年）特別賞「日本政策投資銀行賞」を受賞している。

参考 HP

- ・ 小樽散策～小樽運河歴史の散策路～

http://www.saboten.sakura.ne.jp/~suzu/ota_unga.htm

- ・ ECO - MISSION2011@JAPAN

<http://team-acp.co.jp/ecomission2011/?p=3020>

- ・ Blog??・・・Life Log だな

<http://blog.goo.ne.jp/yettim/e/cb6c5fe92042ac8a5bd8bbe465eb8e16>

- ・ 山口たもつが行く! - livedoor Blog

http://blog.livedoor.jp/yamaguchi_tamotsu_2005/archives/cat_10001868.html/

- ・ 小樽市統計書

http://www.city.otaru.lg.jp/sisei_tokei/reiki_tokei_siryo/toukei/toukeisho.data/H22toukeisyo.pdf

- ・ Hokkaido1.jp

http://www.hokkaido1.jp/search/datail/?shop_id=51

- ・ NEWSLETTER

<http://www.l.u-tokyo.ac.jp/tabunya/newsletters/vol35.pdf#search>

- ・ 小樽市のまちづくりと中心市街地活性化策 衣川恵

http://www.iuk.ac.jp/chiken/pdf/regional_studies37/kinukawa.pdf#search

- ・ 小樽學

<http://otarugaku.jp/article/?c=4&s=6148&sc=&lv=31>

- ・ 小樽雪あかりの路 official website

<http://otaru.yukiakarinomichi.org/>

- ・ おたる潮まつり HP

<http://otaru.ushiomatsuri.net/>

- ・ フォト壁

<http://www.photokabe.com/3497/>